

縁をつなぎ、安心をとどけるお寺

清元院だより

第 21号

【まずその根を養うべし】

「枝や葉を伸ばそうと思うなら、まず根っこを丁寧に育てなさい」という意味です。

清元院の本堂に立つと、8月は蓮が満開です。山門の先に見えるコスモス畑も10月には美しい花を咲かせてくれます。

蓮は3月末に、お檀家やそうでない方も一緒に蓮好きの15人の「はすとも」さんたちが半日かけて植え替えてくださったものです。コスモス畑は6月に宮木部落のボランティアの方々が種まきしてくださいました。その後も草刈りや除草の手間を惜しまず育てて下さっています。

この美しい景色は、清元院を支えるお檀家さんやファンの方々の「根っこ」なくしては見ることでできないものです。

そのみなさんを大事にすること、声に耳を傾け寄り添うことが、清元院発展の土台なのだ、この景色を見るたび心新たに思うのです。

活動紹介⑦「死の体験旅行」

お寺の使命

以西ふるさとめぐり⑦

のんのんさま⑥

イベント情報・お知らせ

発行：曹洞宗大梁山清元院 住職 井上英之
佛歴二五六六年 令和5年8月5日

活動紹介⑦ 『死の体験旅行』

2023 年7月19日 日本海新聞

死を迎えるとき、自分にとって大切なものは何か。琴浦町宮木の清元院で16日、自分が病にかかり、死を迎えるまでを仮想体験するワークショップ「死の体験旅行」が開かれた。鳥取県内外から記者を含めて4人の男女が参加。身の回りで起こる近しい人との別れ、「終活」という言葉もよく聞くようになった。「必ずやってくる死。死の体験旅行は本当の自分と向き合う心豊かな時間」と同寺の井上英之住職(56)は話す。参加者は何を思い、参加したのか、その様子をレポートする。

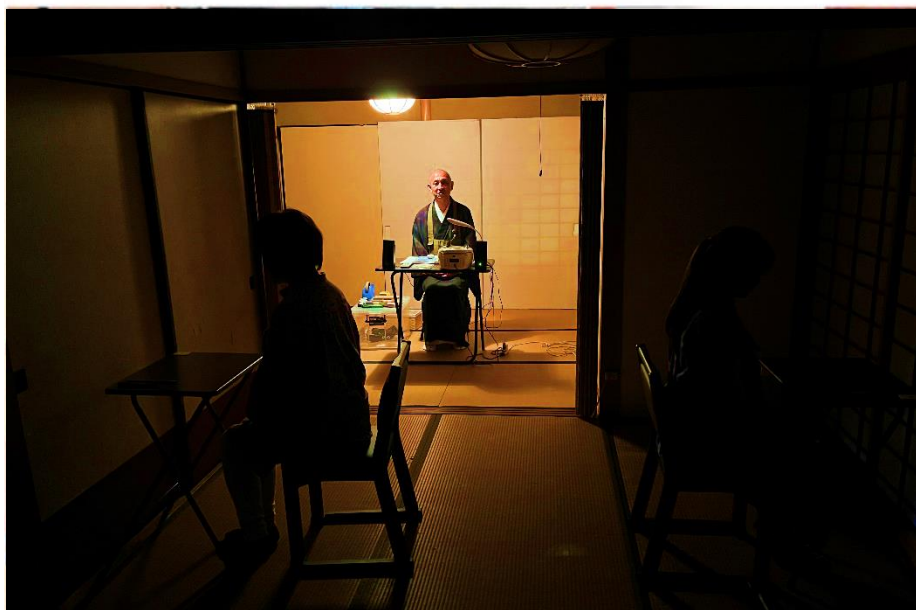
(吉浦雅子)

本紙記者ルポ

「死」と向き合い 「生」を見つめる

琴浦・清元院でワークショップ

病で命終えるまでを仮想体験



死を迎える疑似体験をするワークショップの参加者と井上住職(中央)＝16日、琴浦町宮木の清元院

進行役は井上住職。受け付

■大切なもの

けを済ませると、机と椅子が壁に向かって置かれている部屋に通された。椅子に腰かけ

ると、隣とは距離があり、ずっと自分だけの世界に入った。

部屋にはリラックスするための静かな音楽が流れている。名刺大の4色の紙が各5枚、計20枚配られ、自分が大切にしている物、人、思い出、活動を記入。書き終えたら全てを机の上に並べた。

部屋の明かりが落とされ、井上住職の「主人公と自分を重ねてください」と物語がスタート。体調不良から精密検査を受けることになった自分。何かが失われたような気持ちとなり、紙を1枚手放した。

病状が悪化していく物語がゆっくりと進む。その度に紙を捨てて行く。最終局面、眠る時間が増え、ついに最後の紙を手放して命の幕を閉じた。井上住職の「死に向き合うことは生を見つめることです」の言葉で終了した。

部屋が明るくなり、はっと現実に戻った。足元には、自分の大切なものを書いた20枚の紙が丸められて落ちていた。それを見たとき、最後に残った1枚について考える自分だった。

■立ち止まる

このワークショップは、欧米のホスピス(終末医療施設)

の従事者向けに開発された。日本では2013年1月から、神奈川県在住者が一般向けに開催。全国各地で開かれているが、中国地方では、井上住職が初めて「死の体験旅行」の講師として認定され、ワークショップを開いた。今回は4月に続き2回目。

境港市の女性(61)は「自分の大切にしたいものが明確に分かった。残りの人生でできることをやりたい」と晴れ晴れとした顔。香川県から参加した終末期ケアに携わる認定介護福祉士の男性(44)は「仕事上、死と向き合うことが多い。ふと立ち止まって終末期ケアを学ぶうち、このワークショップのことを知った。利用者さんの思いを聞いて、どう死を迎えるのか家族と話し合っていければ」と今後の方向性の道筋を見つけた様子だった。

井上住職は「人間は死を恐れ、死を遠ざけて生きている。必ずやってくる死を真摯に見つめることがより良い生を送ることにつながるのでは」と話した。

死を体験する。仮想とはいえ、なかなかできない経験をした約2時間だった。同寺では今後もワークショップを行っていく。

■時間 14～16 時 ■参加費 3,000 円(清元院檀信徒は無料) ■場所 清元院 ■定員 8名
■次回 3 回目 10/7 は8名満席。4 回目 12/9 は、あと3席です。

■日本海新聞「潮流」のコーナーに連載され、令和4年7月から令和5年6月まで計12回執筆しました。
今回は最終12回目(6月11日掲載分)を紹介します。

「みなさんのお寺の使命は何ですか？」
「ここで言うみなさんとは、お檀家さん、お坊さんだけでなく、お寺と縁をつないだ全ての人を指します。使命は存在意義と言ひ換えると分かりやすいと思います。仏教は長い歴史の中で、社会変化の壁にぶつかるたびに、大事なものを再確認し、変化し、未来を切り開き、今日まで続いてきました。現代がまさにその時です。過去にないスピードで社会が変化し、お寺離れが叫ばれる今日こそ、お寺の「あるべき姿」だけでなく、お寺自身から湧き出てくる「ありたい姿」を目指すことが必要だと思います。」
一言でお寺と言っても、地域性・規模・住職・支える人の顔ぶれなど、お寺によって個性はさまざまです。ともするとこれまでのお寺づくりは、その個性を重要視せず「あるべきお寺」像を、金太郎アメのように目指そうとする傾向にあったかもしれません。それは仏教や宗派の統一した方向性として大事なことだと思います。しかし一面では、求められるお寺像が変化している今こそ、自ら求める「ありたいお寺」を目指す時だと思うのです。

私が住職を務めるお寺は中山間地域にあります。急速に少子高齢化が進み、高齢者や独居、空き家が増え、保育園も小学校も閉園閉校しました。交流の場が減り、縁が希薄になってきたことへの不安も芽生えました。

「お寺」でできることは何か…。
考え抜いた末に6年前、お寺の使命を「縁をつなぎ安心をとどける

潮流

お寺の使命

清元院住職 井上 英之



「お寺」と決めました。使命を書いた看板も山門に掲げました。仏教を土台にして、「人が集まり・つながり・支え合う、安心できるお寺でありたい」と思ったからです。まず縁をつなぐ目的で、座禅会、写経会、お寺ヨガの月例行事を始めました。お地藏様作り教室、お寺deサウナなどの多彩なイベントや地域の伝統を掘り起こす行事なども行いました。情報は交流サイト(SNS)やホームページでも発信しました。地域内だけの交流には限界があり、外から人を呼び込み交流する必要があると思っただからです。今では県内各地から多くの方がお寺を訪れてくださるようになりました。

同時に、心配事や悩みを話しに來られる方も増えました。供養や自身の終末への不安の相談もあります。そんな方に安心していただくために、傾聴の講習を受けたり、供養の工夫や永代供養の充実を進めたりしています。

でもまだ、目指す使命の第一歩を踏み出したに過ぎません。迷った時は、どうしたら縁をつなぐことができるだろうか？ どちらが安心してもらえるだろうか？と「縁と安心」の使命に立ち返り判断するようになっています。

お寺の使命は、私を戒め進む道を照らしてくれる灯です。これからもお寺の使命を果たすことができるよう、一步一步進んで行きたいと思っています。

今回で12回の連載が終わりです。貴重な機会を頂いたことに感謝し筆をおきます。ありがとうございました。(琴浦町)

以西 ふるさとめぐり⑦

【宮木】

ばくち
博打の親分「ごう」

古老の話によると、大正から昭和にかけて「ごう」と呼ばれるヤクザの親分が宮木に住み着き、宮木は大きな賭場になっていた。宮木のすぐ上(かみ)に古布庄や上郷から直通の道があり、多くの人が賭場にやって來ていた。

博打で家を手放す人も出て、このままでは部落が大変なことになってしまふ、と危機感を持った村人が、川の淵で宴会を催し、「ごう」を呼び出した。ごうが酒に酔ったところで村人がごうの頭を水に沈めて命を断った。その時に、ごうが岩に手をついて抵抗したので、その石にごうの手形が残ったとのこと。昭和の圃場整備でその岩は行方知れずになった…。

※古老も又聞きの話だが、火の無いところにこれだけの煙は立たないのでは…。



のんのんさま ⑥

元気な子どもたちを紹介
かがやく宝ほとけの子



(右) 小椋凜空さん(中) 小椋斗貴くん
(左) 小椋星七くん

琴浦町山川木地
小椋貴文さん、まどかさんのお子さん。

《お父さん・お母さんより》

長男・星七が8歳、長女・凜空が7歳、二男・斗貴が3歳になりました。毎日、にぎやかというより、けんかばかりでわあわあうるさい日々です(笑)

あつという間に子育て期間が終わってしまいう前に、この山川木地で自然にふれあい、たくさんのおい出を作って行きたいです。

あとは、たのおけ3人仲良くしてくれ(笑)

第10回 お地蔵様づくり教室

大人気のイベントです。二部に分けて本堂をゆったり使って行います。

- 9月16日(土)
- 午前の部 9時半～
- 午後の部 13時半～
- 各20名限定
- 参加費 一人2200円



終活相談会

- ・ 相続、空き家、成年後見などについてアドバイス(個別相談可)
- ・ お寺との付き合い方講座
- ・ 永代供養見学・相談
- 9月18日(月)敬老の日
- 14時～
- 参加費 無料



月明かり茶会

- 4年ぶりに開催します!
- ・ 中秋の名月と朗読、お茶席、中国茶・はす茶、竹林ライトアップ
- 9月29日(金)
- 19時～
- 参加費 500円



柳家さん喬 独演落語会



- 9月22日 開演18時
- 会場: 清元院本堂
- 参加費 500円
- 申し込み不要
- 出演: 柳家さん喬 (5代目小さん門下)
- ・ 落語協会理事(紫綬褒章受賞)
- ・ 一流の江戸落語をお楽しみください

第2回 お寺でサウナ

- 大人気イベント
- ・ 坐禅で調う×サウナで整う
- 10月14日(土)
- 会場: 清元院
- 定員20名 ■ 参加費 未定
- 申し込みは、清元院または、ネイチャーサウナへ

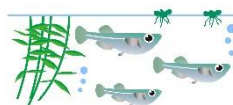


お盆は お寺が楽しい!!

今年もやります!

【メダカすくい】

- ・ 8月13～15日
- ・ 本堂前
- ・ 一人5匹まで
- ・ 金魚すくいと同じやり方です。
- ・ 銀色のメダカ約500匹
- ・ ラメ入り「夜桜」約100匹



【フードコーナー】

- ジラソーレカフェ
- ・ 各種クレープ&ドリンク
- ・ 8月13～15日 (10～15時頃)
- ウッドベッカー
- ・ スパゲティナポリタン&かき氷
- ・ 8月13日のみ



【ワンコイン整体】

- チームTTB お寺でカイロプラクティック
- ・ 8月14日 10～17時
- ・ 骨盤調整500円
- ・ 本堂内
- ・ 【以西ポロシャツ販売】
- ・ 本堂ろう下

◆ これからの行事

- ◇ 8月13日 みんなのお盆法要
- ◇ 8月14日 初盆合同法要
- ◇ 8月15日 戦没者慰霊祭
- ◇ 9月16日 お地蔵様作り教室
- ◇ 9月23日 彼岸会先祖供養
- ◇ 9月29日 月明かり茶会
- ◇ 10月8日 永代供養合同法要 13時半
- ◇ 10月14日 お寺でサウナ
- ◇ 12月31日 除夜の鐘 年越しそば

◆ 月例会

※申込不要

- ◇ 写経写仏の会
 - ・ 第1日曜 午後3時～
 - 参加費 実費300円
- ◇ 坐禅会
 - ・ 第3水曜 午後7時30分～
 - 実費300円
- ◇ お寺ヨガ
 - ・ 第4水曜 午後7時30分～
 - 参加費 1700円



清元院

住職 井上 英之

〒689-2522 鳥取県東伯郡琴浦町宮木 57

TEL 09049238768 fax 0858-55-7064

メール inotera1@gmail.com

facebook : 井上英之 清元院

鳥取 清元院 検索



清元院 HP